

こども教育会議 会議録（速記メモ）

日時	場所	出席	小松市長、松尾教育長、大庭教育長職務代理者 教育委員（馬場、山口、牟田、岡本、田中、大渡、井手） 秋月こども教育部長、諸岡こども教育部理事、 教育総務課（木村課長）、学校教育課（小川課長、鶴田副主幹）、 スポーツ課（石橋課長）、文化課（山北課長、井手室長） 庭木企画部長、企画政策課（弦巻課長、小柳係長、野田）
令和4年7月27日（水） 13:30～14:30	武雄市役所 災害対策本部室		
1. 協議件名	第29回こども教育会議 （部活動の在り方と地域との関わり）		

議事録

内容	<p>1 開会（進行：庭木企画部長）</p> <p>2 議事（議事進行：小松市長）</p> <p>（1）部活動の在り方と地域との関わり</p> <p>①話題提供</p> <p>部活動運営に関する国や県の動向や、武雄市の現状、課題等の説明を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p>＜出席者の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子供たちが部活動をするための環境」、「教職員の部活動への関わり」をよりよい方向に変えていく良いチャンスである。 ・教育委員会、学校現場、PTA、保護者、地域（体育協会等）でどの様に議論を進めていくかが重要だが、最終的には教育委員会が中心となり、責任を持って議論を進めるべきと考える。 ・学校現場からは指導者不足の問題があり、体協からの指導者の派遣などがあればありがたいとの意見があった。 ・現状、部員不足により単独では練習が出来ない学校もあるため、合同練習の組み合わせを来年度までに検討したほうがよいのではないかと。 ・合同練習となると保護者の送迎の負担も増えるので、練習場所についても検討が必要ではないかと。 ・経済的にゆとりがない家庭のためにも、場所については公的施設の活用、用具についても公的設備の利用などの工夫ができないかと。 ・地域の大人、児童へアンケートを実施することにより、「必要なクラブの把握」をしたほうが良いのではないかと。 ・地域のアクティビティクラブで体を動かすことで、地域への愛着ができるのではないかと。 ・現在の「小学校のスポーツ少年団と中学校の部活動の合体」、「クラブチームや体協主催のスポーツへ部活動として参加」等、できるところから進めていけないかと。 ・指導者の人材確保について、スポーツ団体等に協力してもらえよう、協議を進める必要があるため、令和5年度の動きが大切になる。 ・地域移行により「子供たちの選択肢が広がること」、「地域との関わりができること」が地域の活性化にも繋がるのではないかと期待している。 ・指導者には技術だけでなく自主性・主体性の指導も求めたい。また、部活の指導が原因となって不登校となった事例もあったようだが、地域が関わることで風通しがよくなり、この様なことが無くなると思う。 ・子供達も地域移行に関する議論に参加し、「入りたい部」「部活動に対する意見」等の子供たちの想いに耳を傾けてはどうか。教員、こども、保護者、地域、いろんな立場の人が本音で議論できる場をつくり、そのプロセスを学ぶのも、主権者教育の一環になるのではないかと。 ・部活動は子供の成長、学校生活、人間関係において大切な学びの場である。また、教員にとっても生徒指導、生徒理解、信頼関係づくりに役立っている。
----	--

- ・身体や精神の発達、体を動かすことの楽しさ、試合やコンクールの達成感を残していくべき。
- ・教員の指導者の中にも、指導を精神的苦痛に感じる人、生きがいにしている人がおり、それぞれの考え方を尊重しなければならない。
- ・この移行をチャンスと捉え、子供、保護者、学校、地域どの立場にも負担が偏ることなく、平等なものになるよう考える必要がある。
- ・季節ごとに取り組むスポーツを変えたり、複数の種目を体験できるということも今までになかった発想なので、これを部活動の選択肢を増やすチャンスと捉えることもできる。
- ・地域移行により、経済面、送迎等の理由により部活動を諦める生徒が出てくる可能性があるため、それぞれの学校に、取り組みたい人が参加できる総合運動部等を残しておくのもいいのではないか。
- ・人数が増えることで成立する部活動もあると思うので、選手を登録しておく部活動人材センターのようなものがあるのもいいのではないか。
- ・長期スパンでしっかり協議を継続した上で実行する方法もあるが、移行期間中に少しずつ試す期間があってもいいのではないか。
- ・地域移行する場合でも、学校と部活動は切り離せないものだと思うため、学校と地域の情報共有は大事にしてほしい。
- ・複数校の合同部活になる場合、各学校を総括する本部はどこになるのか、問題発生時の対応等のために、厳格に組織体制を定める必要がある。
- ・武雄は ICT 教育を推進しているため、e スポーツの取り組みがあってもいいのではないか。
- ・地域移行した場合に、部活動の教育的な役割を継続できるか懸念がある。
- ・総合型スポーツクラブは多世代、多種目、多趣向でスポーツに対する意欲を引き出すことができ、楽しく参加できるが、中学生がそこに参加できるか疑問がある。そこで、小学生高学年から中学生までを対象とした総合型スポーツクラブがあれば、多くの人が参加するのではないかと考える。
- ・地域の子供は地域で育てるという考えが大切である。
- ・放課後児童クラブの様に、部活動についても指導者を公募し、研修会等を開催する方法もあるのではないか。
- ・地域移行に関しては、小学校、中学校、高校をつなぐ視点が欠かせない。中学校単独で考えるのではなく、小学校、高校の地域移行も見据えて、どの競技を残すか、地域移行するか等の議論をする必要がある。
- ・一気に進めるのではなく、準備が整った地域や競技から進めていくことが望ましいと考える。体育協会等の団体に丸投げするのではなく、組織的に移行の準備を進める必要がある。
- ・地域との関わりという点では、地域支援員、コーディネーターの役割等、はなまる学習の経験を活かせるのではないか。
- ・団体競技は「中体連に参加できない」、「練習が成立しない」といった深刻な問題があるため、困っている部活から取り組んでいく等、優先順位を決めて進める必要があるのではないか。
- ・移動手段、財源確保、指導員の人材育成等、課題は多くあるため、市単独で出来なければ、他市町・県と連携して国に要望することも必要である。
- ・地域移行を行った場合に「スポーツ離れ」、「地域格差」が生じないようにしなければならない。
- ・スポーツ少年団の理念にもあるように「楽しさ」、「心と身体の育成」、「地域の活性化」が根底にあるべき。
- ・競技としてのスポーツの受け皿に関しては体育協会。生涯スポーツ、障害スポーツの受け皿としては、総合型スポーツクラブが考えられるかと思う。そういう組織が参加して「部活動検討委員会」のような組織が立ち上がればいいと思う。
- ・スポーツ課、学校教育課、体協含めて協議を進める必要あり。ヨーロッパのようにスポーツがやりたい人ができる環境が理想だと思う。

- ・令和6年度からと言わず、現状で困っているところがあれば令和5年度からでも、合同練習、送迎バスの運行等に組み込んでいいと思う。
- ・競技によっては、バドミントンのように総合型スポーツクラブに属していても中体連に出場できるものがあるため、部活動の受け皿として有効ではないか。
- ・保護者、指導者、地域の意識を変えていくことは、時間がかかると思うので、早めに取り組む必要がある。そのために、「部活動検討委員会」のような組織を早めに立ち上げ、議論を進めるべきではないか。

(教育長)

- ・競技力向上を目指す人、楽しみたい人、多種多様な考え方があるということを前提にこれからの環境づくりを検討していく必要がある。
- ・学校の規模により、「土日の学校部活動に外部指導者入れること」、「合同練習の場をつくること」両方必要になってくる。
- ・経済的負担、移動の負担など軽減していく施策が必要となってくる。
- ・全国で通用するような子供たちをどう輩出していくかという視点も忘れてはいけない。
- ・中学校の部活動を地域移行することによる、小学校、高校への影響も併せて検討していかなければならない。
- ・子供がしたいスポーツ環境をつくるのが大切だが、教育委員、地域、保護者、育友会、PTA 等の皆様の意見を聞きながら進め、大人の都合で子供が戸惑わないようにしないといけない。

<市長の発言>

- ・部活動にはスポーツ部と文化部があるが、武雄市ではスポーツについては市長部局(スポーツ課)になるため、今後の部活動の在り方を考える上では、こども教育会議は非常に意義のある場であると考えている。
- ・手法ではなく、何を大切にしていくかという「ビジョン」について、皆さんで共通認識を持った上で、「そこを目指すにはどうすべきか」を考えていく必要がある。現状を前提にした議論は相応しくないと考える。
- ・部活動の地域移行に関しては、当初後ろ向きなイメージがあったが、時代にあった形をつくる前向きな改革であると改めて実感している。
- ・これからは部活動に自分を合わせるのではなく、自分の想いや目指すものがあり、そこに合わせた環境をつくるという発想が大切になると思う。
- ・部活動改革は、教育改革、生き方改革につながっていくと感じた。
- ・せつかく変えていくので、生徒、教師、地域、保護者にとって良いものにしなければならない。
- ・自治体によって「学校数」、「学校の規模」、「歴史」等様々であるため、武雄らしさを意識していきたい。
- ・市内には青陵中学校もある。県立ではあるが行政の縦割りも排除して、より幅広く考えていきたい。
- ・「部活動検討委員会」のような組織を早く立ち上げ、柔軟な発想で議論を進めていきたい。
- ・本日頂いた前向きな意見をこれからの進め方にしっかりつなげていきたい。

3 閉会(進行:庭木企画部長)